
県老連の活性化に向けた提言・提案

～初の県老連運営委員会開催～

平成23年4月1日に公益財団法人へ移行した際、公益法人制度下における運営上の理由で、本会の評議員数を従来の59名から16名へ減員しました。

県老連では、できるだけ多くの会員の方の意見を聴取し、運営に反映させることが望ましいと考え、従来の評議員と同様、各市町村老連から選出された59名による運営委員会を設置することになりました。



このたび、初めてとなる運営委員会を去る3月27日、あわぎんホールにおいて開催しました。

委員会は、まず徳島市の細川委員を議長に選出、その後、あらかじめ提出された提言に基づき、意見交換を行いました。

提出された提言概要は下記のとおりです。

・阿波市 兼松委員

(要旨) 魅力あるクラブづくりについて

活動を魅力あるものにすることが大切。そのための研修として、活発な活動をしているクラブを直接訪問し、視察・交流学习を行うなども取り入れてはどうか。

・那賀町 東野委員

(要旨) 介護予防リーダー養成研修について

那賀町は山間部が多く、阿南市まで4日間通うのが難しい方もいる。できれば1日で、多くの方に参加できる形で実施できないか。

・徳島市 藤本委員

(要旨) シルバー大学校との連携について

県シルバー大学校や高齢者大学等の学生は、卒業後も地域活動や老人クラブには参加せず、グループやOBだけの会で旅行等を楽しむなど、地域リーダー養成としての目的を果たしていないように思える。

県からの補助金等も投入されており、卒業生に会員になるよう働きかけてはどうか。

・阿南市 岡部委員

(要旨) 単位クラブの活性化について

老人クラブの目的達成のためには、下部組織の充実と活性化が不可欠であり、社会に認められる老人クラブとして、何らかの具体的な取り組みが必要ではないか。

・徳島市 木村委員

(要旨) 単位クラブ、会員への周知徹底

連合会が行っている事業、活動の目的や内容が、単位クラブや会員まで周知徹底されておらず、改善が必要である。

(1) 単位クラブ毎の研修、講習会の実施

(2) 単位クラブへの助成金(2~3万円)の交付

(3) 地区単位の連合会として実施

また、上記以外にも他の委員から単位クラブに対する補助金の使途について、制約が厳しいので緩和できないかとの意見がありました。これらの提言内容に対し、事務局からはできる限り対応していきたいと回答、特に補助金の適切な運用について市町村に対し、国から示されている交付要綱の徹底と、高齢者にも分かりやすく説明会を開くなどの対応を要望することにいたしました。あわせて、県担当課に対しシルバー大学校卒業生が、本来の目的である地域貢献のため、老人クラブに加入するよう働きかけをお願いしました。